



我々が望む海洋・政策・科学－学際知で挑む2030

@東京大学小柴ホール 2025/12/6

東京大学大気海洋研究所・特任教授

(東京大学総長特使「国連海洋科学の10年」担当)

道田 豊

(ユネスコ政府間海洋学委員会議長)

ファシリテータ

道田 豊（東京大学、ユネスコIOC、日本海洋政策学会副会長）

パネリスト

原田尚美（東京大学） 生物学

瀬田 真（早稲田大学） 国際法

鈴木崇之（横浜国立大学） 海岸工学、防災

森岡優志（海洋研究開発機構） 海洋物理、ECOP

小熊幸子（笹川平和財団） 海洋教育

- ・国連海洋科学の10年(2021-2030)の折返点
- ・第3回国連海洋会議(UNOC3)、一つの海洋科学会議(OOSC) @ ニース
- ・国連公海等生物多様性協定(BBNJ協定)発効間近
- ・第3版世界海洋評価(WOA-III)まもなく公表
- ・海の事典刊行(日本海洋政策学会、日本海洋学会共同編集)
- ・



海洋科学の10年後半の重要課題、その取組み方策

海洋科学の10年で期待される成果を見据えて、今後の海洋政策の方向性
次期海洋基本計画、science-policy interface ...

OOSCの勧告

1. 知識体系の統合により海洋に対する責任と敬意を喚起
2. パリ協定の実現に向け、効果的、公平的、環境的に安全な海洋ベースの取組
3. 公平かつ持続可能な管理による海洋・沿岸生態系の効果的な保護と回復
4. 深海における有害な活動の一時停止、持続可能かつ公平な利用のための知見の向上
5. 海洋遺伝子資源から得られる利益の公平な分配の確保
6. IUU漁業の根絶、漁業活動の透明性の改善
7. 持続可能かつ公平で安全な海洋食料システムの確保
8. 海洋プラスチック汚染を終息させるための包括的対策の実施
9. 海運の脱炭素化、海上輸送の環境負荷低減
10. 海洋に関する諸対策のための包括的な基礎研究、学際的知識創出に向けた野心的投資の確保



UNOC3の成果文書(Policy Declaration)

“Our ocean, our future: united for urgent action”

緒言 (para 1 -5)

海洋及び海洋生態系の保全 (para 6 – 18)

UNFCCC, Paris Agreement, KMGBF, SIDS/LDCs, plastic pollution, MSP, early warning system for marine hazards

持続可能な海洋経済の推進(para 19 – 25)

sustainable ocean plans, IUU fishing, reduction of GHG emissions

加速すべきアクション (para 26 – 34)

BBNJ, ocean literacy, regional/subregional cooperation, data & information sharing, science-policy interface, WOA, S-S/triangular cooperation, blue economy

(<https://www.un.org/pga/wp-content/uploads/sites/109/2025/05/UNOC3-declaration-final.pdf>)